

科 目	自然科学概論	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	米山 乃生子	教員区分	一般教員

教科書	プリントを配布します。また、授業内で使用した画像など(PowerPoint)は、PDFデータでクラスルームにUPします。
参考書	お手持ちの中学高校で使用した地学・生物・化学・物理・数学などの教科書 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 「人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学」 「人体の構造と機能3 栄養学」全国歯科衛生士教育協議会監修(医歯薬出版)
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	主に生物・化学の復習を通して基礎医学や計算を必要とする項目への基盤を作る

科目の目標	歯科衛生士を目指す者として基盤となる自然科学分野の知識を習得する。
授業概要	歯科衛生士に必要な自然科学分野を中心に学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	地球環境(地学・化学・物理)
2	物質(化学・物理)
3	物質の分類(化学・数学)
4	物質が水に溶けるということ(化学・数学)
5	化学反応(化学・物理)
6	診療における化学反応(化学・物理・数学)
7	生命とは(生物)
8	人体の構成(生物・化学)
9	体内の物質の移動(生物・化学・物理)
10	栄養(生物・化学)
11	代謝(生物・化学)
12	情報の伝達(生物・化学・物理)
13	動くということ(生物・化学・物理)
14	人口動態統計・歯科統計(数学)
15	定期試験対策・質問会
16	定期試験/解答・解説、授業総括

科 目	医療人間科学 I	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1 学年
		実施学期	1 学期
教 員 名	那須 昭夫	教員区分	一般教員

教科書	『日本語表現&コミュニケーション（改訂版）社会を生きるための22のワーク』 石塚修・今田水穂・大倉浩・小針誠・島田康行・田川拓海・那須昭夫（実教出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	ワークシート・教科書を用いて復習を十分に行うこと。

科目の目標	歯科衛生士を目指す学生として適切な読解力と表現力を身につけられるようになる。分かりやすく伝わりやすい表現の技法を学び、実践できるようになる。
授業概要	社会人としての言葉づかい、コミュニケーションの諸技能、伝わりやすい文章を書く技法、着実な読解力を、講義と練習問題を通じて身につける。

日程

回 数	授業内容
1	改まった言葉づかい
2	丁寧な言葉づかい
3	尊敬語と謙譲語
4	敬語を使いこなす
5	言葉のグループ
6	漢字・漢語の用法
7	話し言葉と書き言葉
8	言葉のあいまいさ
9	係り受け
10	接続語の用法
11	文章と論理
12	文章読解トレーニング（1）
13	文章読解トレーニング（2）
14	文章読解トレーニング（3）
15	要点の復習
16	定期試験/解答・解説、授業総括

科 目	健康社会学	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	音琴 淳一、中島 一郎	教員区分	一般教員

教科書	配布プリント
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験（60%）と成果物・レポートなどの提出物（40%）で評価する。
留意事項	本教科の成績評価では、演習を含むので、定期試験だけでなく、提出物も重視する。

科目の目標	歯科衛生士として患者や歯科医師とのコミュニケーションの在り方を理解すること。
授業概要	能動的なグループ学修を通じて、情報提供・情報共有や医療人に相応しい態度等を修得する。

実務経験	(実務経験の内容) ※一般教員はこの欄とこの下欄を削除してください。
実務経験と授業の関連	(実務経験をどう授業に活かしているか)

日程

回数	授業内容
1	1. 全人的医療
2	2. 患者—医療者関係
3	3. 体験型コミュニケーション演習
4	4. 体験型コミュニケーション演習
5	5. インフォームドコンセン
6	6. プロフェッショナルリズム
7	7. 医療コミュニケーション (I)
8	7. 医療コミュニケーション (II)
9	7. 医療コミュニケーション (III)
10	8. 行動科学の基礎
11	9. 口腔保健における行動科学の実際
12	10. 医療コミュニケーション演習 (I)
13	10. 医療コミュニケーション演習 (II)
14	10. 医療コミュニケーション演習 (III)
15	10. 医療コミュニケーション演習 (まとめ)
16	定期試験/解答・解説、授業総括

科 目	解剖学（組織発生学を含む）	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	南澤 直子	教員区分	一般教員

教科書	「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特になし。必要な資料含めて授業プリントを適宜配布する。
成績評価	学期末に行われる定期試験で評価する。
留意事項	解剖学は暗記することも多く分野が多岐にわたるため大変だと感じられるかもしれませんが、ただの暗記にとどまらず、より理解を深めるために自主的・積極的に授業に臨んで下さい。

科目の目標	今後学んでいく専門知識の基盤となる、人体の構造と機能に関する知識を身につける。
授業概要	人体の構造のうち、発生、組織、骨格、筋肉、循環器、神経系について学習する。

日程

回数	授業内容
1	解剖学の基礎・細胞の構造と機能
2	細胞と組織・発生①
3	発生②
4	骨格系 概説
5	骨格系 各部
6	筋と運動 概説
7	筋と運動 各部
8	筋と運動 運動
9	循環① 概説と心臓
10	循環② 動脈と静脈
11	循環③ リンパ系・循環のまとめ
12	神経系① 概説と神経系の構成
13	神経系② 中枢神経
14	神経系③ 末梢神経
15	伝導路・神経系のまとめ④
16	定期試験/解答・解説、授業総括

科 目	生理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	熊澤 真理子	教員区分	一般教員

教科書	「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	教科書、配布資料、筆記用具を必ず持参すること。授業終了後、復習をすること。

科目の目標	人の基本的構造や機能を理解し、臨床に必要な生理学の知識を習得する。
授業概要	授業を通して人体を学ぶ。 教科書、スライド等を使用し、問題演習をしながら知識を習得する。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション ・ 恒常性 ・ 体温 ①
2	体温 ②
3	血液 ①
4	血液 ②
5	排泄 ①
6	排泄 ②
7	内分泌 ①
8	内分泌 ②
9	生殖
10	呼吸
11	循環
12	消化・吸収 ①
13	消化・吸収 ②
14	感覚 ①
15	感覚 ②
16	定期試験/解答・解説、授業総括

科 目	歯牙解剖学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	山口 絢香	教員区分	一般教員

教科書	「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	講師作成による配布資料。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	顎模型や歯牙模型など、事前に指示されたものを持参すること。

科目の目標	歯科医療の基本となる歯牙の特徴を観察することにより習得する。
授業概要	歯科衛生士の業務の基盤となる口腔および歯牙に関して講義や演習で総合的に学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	歯牙の客観的観察・形態・種類・機能。歯の表示法・歯式
2	永久歯の形態の観察と機能（前歯）
3	永久歯の形態の観察と機能（小臼歯）
4	永久歯の形態の観察と機能（大臼歯）
5	乳歯の形態の観察と機能
6	歯列と咬合・特色のある歯の形態についての総復習
7	総復習
8	定期試験/解答・解説、授業総括

科 目	生化学 (栄養学)	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	和気 創	教員区分	一般教員

教科書	「人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学」全国歯科衛生士教育協議会監修 (医歯薬出版) 「人体の構造と機能3 栄養学」全国歯科衛生士教育協議会監修 (医歯薬出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	講義に積極的に参加し、復習に励むこと。

科目の目標	人体の構成成分の代謝過程や栄養素のはたらきを理解し、適正な栄養摂取と栄養指導の知識を習得する。口腔生化学およびう蝕、歯周病などの口腔疾患の生化学を学ぶ。
授業概要	人体を構成する様々な物質の特徴や代謝過程を学び、その知識に基づいて口腔生化学の知識を習得する。栄養素の働きや意義を学び、食生活と健康との関わりを理解する。

日程

回数	授業内容
1	人体の構成要素
2	糖質、脂質の種類と代謝
3	アミノ酸、タンパク質の種類と代謝、遺伝子とタンパク質合成
4	ミネラルとビタミンの働きと欠乏症、栄養素の消化と吸収
5	歯と歯周組織 (結合組織)
6	歯と歯周組織 (歯)
7	硬組織の生化学
8	唾液の生化学
9	プラークの生化学 (う蝕)
10	口臭、プラークの生化学 (歯周病)
11	健康と栄養
12	食事と食品
13	ライフステージと栄養①
14	ライフステージと栄養②
15	ライフステージと栄養③
16	定期試験/解答・解説

科 目	口腔衛生学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	下村 直史・片岡 有	教員区分	一般教員

教科書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第1版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）		
参考書	なし		
成績評価	定期試験にて評価する。		
留意事項	講義内容に加え、自己学習も行い、教科書の各項目を予習復習すること。		

科目の目標	歯科衛生士の基本となる、口腔衛生学についての基礎知識を身につけ理解を深める。 社会の中での歯科衛生士の役割を考える。
授業概要	授業前にプレテスト、授業後にポストテストおよび質疑応答を行う。

日程

回数	授業内容	
1	科目の全体像、総論①	(下村)
2	総論②	(下村)
3	口腔清掃	(下村)
4	う蝕の予防①	(下村)
5	う蝕の予防②	(下村)
6	フッ化物によるう蝕予防①	(下村)
7	歯科疾患の疫学①	(片岡)
8	フッ化物によるう蝕予防②	(下村)
9	歯周疾患の予防	(下村)
10	歯科疾患の疫学②	(片岡)
11	その他の疾患・異常の予防	(下村)
12	ライフステージごとの口腔保健管理	(下村)
13	歯科疾患の疫学③、歯科疾患実態調査	(下村)
14	まとめ、補足	(下村)
15	まとめ、補足	(下村)
16	定期試験/解答・解説、授業総括	

科 目	歯科予防処置 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1 学年
		実施学期	1 学期
教員名	藤森 瑠依	教員区分	一般教員

教科書	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	適宜、授業プリントを配布する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	忘れ物をしないよう心がけ、予習復習を行い授業に臨む。 体調管理に気を配り、休まず出席する。

科目の目標	歯科衛生介入としての歯科予防処置実務を行うための基礎知識を習得する。
授業概要	歯科予防処置を実施するために必要な基礎知識を習得する。

日程

回数	授業内容
1	歯科予防処置の定義と概念・口腔の基礎知識
2	う蝕と歯周病の基礎知識① 口腔内の付着物・沈着物
3	う蝕と歯周病の基礎知識② う蝕と歯周病
4	歯科衛生過程の概要と構成要素
5	口腔内の情報収集① エキスプローラー・プローブ
6	口腔内の情報収集② 歯周組織の検査
7	試験前まとめ
8	定期試験/解答・解説

科 目	歯科保健指導 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	有田 和未	教員区分	一般教員

教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 第二版 医歯薬出版株式会社
参考書	保健生態学 医歯薬出版株式会社
成績評価	定期試験にて評価する
留意事項	教科書を持参すること。

科目の目標	歯科保健指導を実施するための基礎知識を習得し、社会的ニーズに則した支援ができる視点と能力を身に付ける。
授業概要	歯科保健指導における社会的背景と歯科衛生過程の理解する。

日程

回数	授業内容
1	総論 歯科衛生士が行う保健指導の概要・健康の概念
2	保健行動支援のための基礎知識
3	歯科衛生過程の概要と進め方
4	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理
5	歯科衛生介入としての歯科保健指導
6	歯科衛生介入としての歯科保健指導 口腔衛生管理に関わる指導
7	歯科衛生介入としての歯科保健指導 口腔衛生管理に関わる指導
8	定期試験/解答と解説・授業総括

科目	歯科診療補助 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1 学年
		実施学期	1 学期
教員名	杉本 雅子	教員区分	一般教員

教科書	「歯科診療補助論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない
成績評価	定期試験で評価する
留意事項	忘れ物をしないように心掛け、予習復習をしっかりと行い授業に臨むこと

科目の目標	各診療科目において使用する、歯科材料。歯科器具の用途を理解し、習得し、臨床の場で対応できる知識を身につける
授業概要	専門的な歯科診療補助のために基礎知識を習得する

日程

回数	授業内容
1	歯科診療における基礎知識①
2	歯科診療における基礎知識②
3	歯科診療における基礎知識③
4	歯科材料の基礎知識①
5	歯科材料の基礎知識②
6	歯科材料の基礎知識③
7	歯科材料の基礎知識④
8	定期試験/解答・解説

科 目	歯科診療補助実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	上野 真梨子	教員区分	実務教員

教科書	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	あればその都度お知らせします。
成績評価	出席点・日常点・実技試験で評価する
留意事項	歯科診療補助Ⅰ・Ⅱと併せて進めていくため、総合的に学習すること。 忘れ物をしないよう心掛けること。予習復習をしっかりと行い授業に臨むこと。

科目の目標	各診療科目において使用する、歯科材料・歯科器具の用途を理解とともに 基本の知識を身につける。
授業概要	専門的な歯科診療補助のために基礎知識を習得する。

実務経験	歯科衛生士として臨床現場で働き、現場に従事している。
実務経験と 授業の関連	臨床経験を生かして、学生に臨床の応用力を身につけさせる。

日程

回数	授業内容
1	歯科診療における基礎知識①
2	歯科診療における基礎知識②
3	歯科診療における基礎知識③
4	歯科診療における基礎知識④
5	歯科診療における基礎知識⑤
6	歯科診療における基礎知識⑥
7	歯科診療における基礎知識⑦
8	歯科診療における基礎知識⑧
9	歯科診療における基礎知識⑨
10	歯科診療における基礎知識⑩
11	歯科診療における基礎知識⑪
12	歯科診療における基礎知識⑫
13	歯科診療における基礎知識⑬
14	歯科診療における基礎知識⑭
15	歯科診療における基礎知識⑮
16	実技試験

科 目	特別教養科目	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	1学期
教員名	岡田 稔仁	教員区分	一般教員

教科書	講師作成のハンドアウト
参考書	特になし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	講義の受講のみならず、実技演習も行う。予習・復習に勤しむこと。 挨拶、礼儀、傾聴など受講マナーを遵守して授業に臨むこと。

科目の目標	職場の現場で働くスタッフが、ホスピタリティの本当の意味を理解し、日常業務の中で接遇とマナー溢れる行動をとれるようにする。
授業概要	事前課題を提示するので、講義前から自分の「ホスピタリティの感性」を確認し、当日の講義をより効果的にする。講義/実技/ディスカッションの体験型研修により“腹落ち”して実践できるようにする。参加者同士のコミュニケーションを活性化し、より多くの「事例」とその「考え方」を共有し、柔軟性のある対応を身につけるようにする。

日程

回数	授業内容
1	はじめに (1)ホスピタリティンダストリーについて (2)接遇・作法とは？ (3)なぜ、ホスピタリティは大切か？ / ホスピタリティは難しいこと？ (4)「お・も・て・な・し」 / 世界が見る日本のおもてなし文化
2	ホスピタリティとは？その1 (1)ホスピタリティの概念 ①ホスピタリティとサービスの違い ②日本流ホスピタリティ：日本の生活文化、地域社会に根づいたホスピタリティ
3	ホスピタリティとは？その2 (2)ホスピタリティ・マインド(おもてなしの心)：21世紀はホスピタリティ社会 (3)ノーマライゼーションと高齢化社会
4	ホスピタリティとは？その2 (2)ホスピタリティ・マインド(おもてなしの心)：21世紀はホスピタリティ社会 (3)ノーマライゼーションと高齢化社会
5	ホスピタリティの企業事例 (1)カスタマーフォーカス (2)マナーの徹底 (3)ひとの心が動く時 (4)その他の取り組み事例
6	ホスピタリティの自己表現 その1 (1)基本マナー(マナーとは？/身だしなみ/挨拶・お辞儀/表情) (2)立ち居振る舞い(心構え/基本動作/スマートな身のこなし)
7	ホスピタリティの自己表現 その2 (3)言葉遣い(敬語/間違いやすい敬語/ホスピタリティのある話し方・聞き方) (4)電話応対の基本 (5)ビジネスメールの基本
8	定期試験及び解答と解説

科 目	口腔解剖学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	山口 絢香	教員区分	一般教員

教科書	歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（全国歯科衛生士教育協会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	欠席をしないように心がける。復習をしっかりとする。わからないところは質問をする。

科目の目標	歯科衛生士として必要な口腔領域の構造を理解し、臨床科目を履修する際に応用できるようにする。
授業概要	口腔領域の構造を図や写真を観察して理解する。

日程

回 数	授業内容
1	I編1章①口腔とは
2	I編1章②口腔を構成する骨
3	I編1章③頭頸部の筋と作用
4	I編1章④顎関節
5	ここまでの要点確認
6	I編1章⑤口腔周囲の脈管
7	I編1章⑥神経
8	I編1章⑦唾液腺
9	I編1章⑧咽頭と喉頭の構造
10	ここまでの要点確認
11	I編3章①エナメル質②象牙質・歯髄複合体
12	I編3章③セメント質④歯根膜⑤歯槽骨⑥歯肉
13	II編1章 顔面と口腔の発生
14	II編2章 歯と歯周組織の発生
15	ここまでの要点確認
16	定期試験/解答・解説、授業総括

科 目	口腔生理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	守谷 友二郎	教員区分	一般教員

教科書	口腔生理学
参考書	一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会監修
成績評価	出席の条件を満たし定期試験に合格すること。(合格基準 60%)
留意事項	特になし

科目の目標	歯科衛生士国家試験合格基準に到達すること。
授業概要	歯科衛生士国家試験に合格するための知識を身につけること。

日程

回数	授業内容
1	Ⅲ編 歯・口腔の機能 〈1章 歯・口腔、顔面の感覚〉 〈2章 味覚と嗅覚 途中まで〉
2	Ⅲ編 歯・口腔の機能 〈2章 味覚と嗅覚〉 〈3章 咬合と咀嚼・吸啜 途中まで〉
3	Ⅲ編 歯・口腔の機能 〈3章 咬合と咀嚼・吸啜〉 〈4章 嚥下と嘔吐 途中まで〉
4	Ⅲ編 歯・口腔の機能 〈4章 嚥下と嘔吐 途中まで〉
5	Ⅲ編 歯・口腔の機能 〈4章 嚥下と嘔吐〉 〈5章 発声・発語 途中まで〉
6	Ⅲ編 歯・口腔の機能 〈5章 発声・発語〉 〈6章 唾液 途中まで〉
7	Ⅲ編 歯・口腔の機能 〈6章 唾液 〉 〈定期試験対策〉
8	定期試験/解答・解説

科 目	病理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	熊澤 真理子	教員区分	一般教員

教科書	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	教科書と筆記用具を必ず持参すること。授業終了後、復習をしてください。

科目の目標	疾病の成り立ちやその病態を理解し、臨床の場で生かせる知識を習得する。
授業概要	病気や疾患の原因、病態を学び、問題演習をしながら理解を深めていく。

日程

回数	授業内容
1	序論と病因論 遺伝性疾患・奇形
2	循環障害・脳血管疾患
3	代謝障害・退行性病変
4	増殖と修復
5	炎症と免疫応答異常
6	腫瘍
7	総復習
8	定期試験/解答・解説、授業総括

科 目	口腔病理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	熊澤 真理子	教員区分	一般教員

教科書	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	教科書、筆記用具を必ず持参すること。授業終了後、国家試験問題を復習すること。

科目の目標	病理学で学んだ知識をもとに、歯科衛生士として臨床現場でみることになる口腔領域の疾病を学ぶ。
授業概要	歯科衛生士として必要な知識を講義形式で解説する。

日程

回数	授業内容
1	唾液腺の病変
2	口腔領域の奇形
3	口腔癌
4	歯の損傷と着色・付着物
5	口腔粘膜の病変
6	歯の発育異常 ①
7	歯の発育異常 ②
8	う蝕
9	象牙質・歯髄複合体の病態
10	歯周組織の病変 ①
11	歯周組織の病変 ②
12	顎骨の病変
13	口腔領域の嚢胞と腫瘍
14	口腔組織の加齢変化
15	国家試験問題演習・まとめ
16	定期試験/解答・解説、授業総括

科 目	微生物学 (口腔微生物学)	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	鈴木 敏彦	教員区分	一般教員

教科書	「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」(医歯薬出版株式会社)
参考書	「標準微生物学 第15版」(医学書院)
成績評価	定期試験で評価する
留意事項	予習・復習に努めること

科目の目標	微生物(口腔微生物)とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態、生体の防御機構としての免疫、に関する基本的知識を修得する
授業概要	パワーポイント、配布資料、ボード板書を用いて授業を進行する。さらに確認テストによる理解度の向上、微生物検体の供覧、口腔細菌の培養や手指アルコール消毒の実習などにより理解を深める

日程

回数	授業内容
1	感染症の歴史、微生物の構造
2	微生物の増殖や生理
3	感染と感染経路
4	生体防御とワクチン
5	グラム陽性菌による感染症
6	グラム陰性菌による感染症
7	その他の細菌、細胞内寄生細菌、抗酸菌による感染症
8	真菌による感染症
9	口腔内の常在菌叢
10	口腔内の細菌感染症と関連疾患
11	顎顔面、口腔領域に関連するウイルス感染症
12	その他のウイルス感染症1、実習(口腔細菌の培養、手指のアルコール消毒と培養)
13	その他のウイルス感染症2、実習(口腔細菌の培養、手指のアルコール消毒と培養)
14	滅菌と消毒、感染管理
15	化学療法の基礎知識
16	定期試験/解答・解説

科 目	衛生学・公衆衛生学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	32
		履修年次	1 学年
		実施学期	2 学期
教 員 名	熊澤 真理子	教員区分	一般教員

教科書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みⅠ 保健生態学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）		
参考書	特に指定しない。		
成績評価	定期試験で評価する。		
留意事項	教科書と筆記用具を必ず持参すること。		

科目の目標	衛生・公衆衛生学の概念・理論を理解する。 個人および集団の健康保持増進、疾病予防、地域保健活動を理解する。		
授業概要	講義：公衆衛生の概念、疫学、地球・生活環境、感染症、生活習慣病、各ステージの保健、 産業保健について学修する。 授業は教科書を中心に解説し、問題演習をしながら理解を深める。		

日程

回 数	授業内容
1	総論・国際保健
2	人口
3	成人保健
4	高齢者保健
5	食品と健康
6	健康と環境 ①
7	健康と環境 ②
8	母子保健
9	学校保健
10	感染症 ①
11	感染症 ②
12	産業保健
13	精神保健・災害時の歯科保健
14	地域保健と公衆衛生
15	疫学
16	定期試験/解答・解説、授業総括

科 目	歯科衛生士概論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1 学年
		実施学期	2 学期
教員名	鈴木 幸江	教員区分	一般教員

教科書	「歯科衛生学総論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	国家試験問題（小テスト）を考慮しながら授業を展開します。

科目の目標	歯科衛生学を基本に、歯科医療での歯科衛生士の役割を説明できる
授業概要	歯科衛生士業務を専門職として実践するための理論的・実践的根拠を学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	歯科衛生学を学び、歯科衛生士の職業を知る。
2	歯科衛生士の歴史を知る。 歯科衛生士法と歯科衛生士業務について知る。
3	医療倫理と歯科衛生について知る。 予防の概念について知る。
4	歯科衛生と医療安全について知る。 感染予防対策について知る。
5	歯科衛生過程について知る。
6	歯科衛生士の活動と組織、チーム医療について知る。
7	まとめ
8	定期試験の解答と解説

科 目	歯周病学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	32
		履修年次	1 学年
		実施学期	2 学期
教員名	南澤 直子	教員区分	一般教員

教科書	「歯周疾患歯周治療 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）		
参考書	授業プリントを適宜配布する。		
成績評価	定期試験で評価する。		
留意事項	ただの暗記にとどまらず、より理解を深めるために自主的・積極的に授業に臨んで下さい。		

科目の目標	歯周病治療は臨床においても歯科衛生士の果たす役割が非常に大きく、やりがいを感じる ことのできる分野である。基本的知識からしっかりと身につけることを目標とする。		
授業概要	授業は教科書をベースに、適宜プリントやスライドを用いて説明していく。		

日程

回 数	授業内容
1	歯周治療とは 正常な歯周組織の構造と機能①
2	正常な歯周組織の構造と機能② 歯周疾患の分類①
3	歯周疾患の分類②
4	歯周疾患の原因
5	歯周治療の進め方
6	歯周組織の診査①
7	歯周組織の診査②
8	歯周基本治療
9	歯周外科治療（1）
10	歯周外科治療（2）
11	歯周治療としてのリハビリテーション
12	メンテナンス
13	歯周治療における歯科衛生士の役割（1）
14	歯周治療における歯科衛生士の役割（2）
15	歯周治療における歯科衛生士の役割（3）
16	定期試験 解答・解説

科 目	歯科予防処置実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	64
		履修年次	1学年
		実施学期	2・3学期
教員名	久間 雅代	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	適宜指示あり。
成績評価	実技試験・出席・身だしなみ・授業態度・提出物を総合して評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士に不可欠な器具の授業となるので欠席しないこと。 ・身だしなみをしっかり整え、忘れ物がないようにし、医療従事者になるという自覚を持って授業に臨むこと。実技試験は3学期に実施する。

科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔内情報収集の方法を知り、実践できる。 ・相互実習を行う中で、患者を思いやる心や協力する態度を養い、各自の技術の向上に努める。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科予防処置で使用する器具・機械を衛生的で安全、かつ適切に使用できるよう、マネキン実習・相互実習を通して習得する。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身につけさせる。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション、口腔内の情報収集、口腔内検査①
2	口腔内の情報収集、口腔内検査②
3	口腔内の情報収集、口腔内検査③
4	口腔内の情報収集、口腔内検査④
5	口腔内の情報収集、口腔内検査⑤
6	口腔内の情報収集、口腔内検査⑥
7	歯科衛生介入としての歯科予防処置 スケーリング・ルートプレーニング手用スケーラー①
8	歯科衛生介入としての歯科予防処置 スケーリング・ルートプレーニング手用スケーラー②
9	歯科衛生介入としての歯科予防処置 スケーリング・ルートプレーニング手用スケーラー③
10	歯科衛生介入としての歯科予防処置 スケーリング・ルートプレーニング手用スケーラー④
11	歯科衛生介入としての歯科予防処置 スケーリング・ルートプレーニング手用スケーラー⑤
12	歯科衛生介入としての歯科予防処置 スケーリング・ルートプレーニング手用スケーラー⑥
13	歯科衛生介入としての歯科予防処置 スケーリング・ルートプレーニング手用スケーラー⑦

14	歯科衛生介入としての歯科予防処置	スケーリング・ルートプレーニング手用スケーラー⑧
15	歯科衛生介入としての歯科予防処置	スケーリング・ルートプレーニング手用スケーラー⑨
16	歯科衛生介入としての歯科予防処置	スケーリング・ルートプレーニング手用スケーラー⑩

科 目	歯科保健指導Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	杉本 雅子	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	定期試験で評価する
留意事項	基礎となり実習へとつながっていくので休まず出席し、よく予習復習すること

科目の目標	口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を習得する
授業概要	各ライフステージ別の一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健行動を説明でき、口腔衛生指導を学習する

日程

回数	授業内容
1	食生活指導のための基礎知識①
2	食生活指導のための基礎知識②
3	ライフステージに対応した歯科衛生介入①
4	ライフステージに対応した歯科衛生介入②
5	ライフステージに対応した歯科衛生介入③
6	ライフステージに対応した歯科衛生介入④
7	ライフステージに対応した歯科衛生介入⑤
8	定期試験/解答・解説

科 目	歯科保健指導実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	有田 和未	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 他、適宜指示する。		
参考書	適宜指示あり。		
成績評価	実技試験・出席・授業態度・身だしなみ・忘れ物・提出物を総合して評価する。		
留意事項	身だしなみを整え、忘れ物等ないように実習に臨むこと。		

科目の目標	歯科保健指導とは何かを知り、人々に対し、歯・口腔の健康の維持・増進を支援するために必要な基本的知識と技術および態度を習得する。		
授業概要	歯科保健指導に必要な基本的技術をマネキン実習・相互実習を通して習得する。		

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。		
授業概要	歯科保健指導を実施するために必要な基礎力を身に付ける。		

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	口腔衛生管理に関わる指導①
3	口腔衛生管理に関わる指導②
4	口腔衛生管理に関わる指導③
5	口腔衛生管理に関わる指導④
6	口腔衛生管理に関わる指導⑤
7	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理①
8	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理②
9	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理③
10	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理④
11	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理⑤
12	歯科衛生介入としての歯科保健指導①
13	歯科衛生介入としての歯科保健指導②
14	歯科衛生介入としての歯科保健指導③
15	歯科衛生介入としての歯科保健指導④
16	定期試験（実技試験）

科 目	歯科診療補助Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	2学期
教員名	杉本 雅子	教員区分	一般教員

教科書	「歯科診療補助論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない
成績評価	定期試験で評価する
留意事項	忘れ物をしないように心掛け、予習復習をしっかり行い授業に臨むこと

科目の目標	各診療科目において使用する、歯科材料。歯科器具の用途を理解し、習得し、臨床の場で対応できる知識を身につける
授業概要	専門的な歯科診療補助のために基礎知識を習得する

日程

回数	授業内容
1	歯科診療で扱う歯科材料①
2	歯科診療で扱う歯科材料②
3	歯科診療で扱う歯科材料③
4	歯科診療で扱う歯科材料④
5	歯科診療で扱う歯科材料⑤
6	歯科診療で扱う歯科材料⑥
7	歯科診療で扱う歯科材料⑦
8	定期試験/解答・解説

科 目	保存修復学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	菅野 文雄	教員区分	一般教員

教科書	「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復学・歯内療法学」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)		
参考書	授業プリント（パワーポイントファイル）を適宜配布する。		
成績評価	定期試験にて評価する。		
留意事項	現時点で予習は難しい科目なので復習に重点を置いて、臨床実習の際に見直してほしい		

科目の目標	歯牙硬組織の疾患及びその治療方法の臨床実習に即した知識を習得する		
授業概要	歯牙硬組織の疾患と治療方法を学習する ※動画に関しては内容、回数に変更の場合あり		

日程

回数	授業内容
1	保存修復学とは 歯牙硬組織の疾患（う蝕性、非う蝕性）
2	窩洞について 歯の切削器具（レーザーを含む）
3	直接法修復（コンポジットレジン、ガラスアイオノマー）動画（直接法）
4	間接法修復（合着材、接着材含む）動画（間接法）
5	口腔内審査
6	オムニバス（ラミネートベニア、知覚過敏 漂白など）動画（漂白）
7	到達度試験と解説
8	定期試験と解説

科 目	歯内療法学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1 学年
		実施学期	3 学期
教員名	熊澤 真理子	教員区分	一般教員

教科書	「最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	教科書と筆記用具を必ず持参すること。授業終了後、復習をしてください。

科目の目標	歯内療法学を学び、歯科衛生士が業務を行うために必要な疾患の種類、症状、診断法および治療法などを理解する。
授業概要	歯内疾患の症状や治療法の概要を学習する。 歯内療法に使用するは多くの治療用器材・器具を学習する。 歯内療法の診療補助をスムーズに行うことができる。

日程

回数	授業内容
1	歯内療法の概要
2	歯髄保存療法
3	歯髄の除去療法
4	根管治療
5	根管充填
6	歯の外傷・歯内療法における安全対策
7	外科的歯内療法、
8	定期試験/解答・解説、授業総括

科 目	歯科補綴学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1 学年
		実施学期	3 学期
教員名	南澤 直子	教員区分	一般教員

教科書	咀嚼障害・咬合異常「歯科補綴」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	3 学期はコマ数が少なく進度が早いので、各自予習して授業に臨んで下さい。

科目の目標	歯科の重要な分野のひとつである歯科補綴の全容と各論について学ぶ
授業概要	それぞれの補綴装置の特徴と利点欠点をいえるようになる

日程

回数	授業内容
1	補綴とは／補綴歯科治療の概要
2	補綴歯科治療の基礎知識
3	医療面接の意義／咬合と顎機能の検査
4	クラウン・ブリッジ治療
5	有床義歯治療
6	インプラント治療
7	特殊な口腔内装置を用いる治療、補綴歯科治療における器材の管理
8	定期試験およびその解答と解説

科 目	小児歯科学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	1 学年
		実施学期	3 学期
教 員 名	下村 直史	教員区分	一般教員

教科書	歯科衛生士学シリーズ 小児歯科学 (一般社団法人 全国衛生士教育協議会監修)		
参考書	なし		
成績評価	定期試験にて評価する。		
留意事項	講義内容に加え、自己学習も行い、教科書の各項目を予習復習すること。		

科目の目標	小児歯科学についての基礎知識を身につけ、理解を深める。
授業概要	教科書とスライドを用いて講義を行う。講義中は問答法によるアクティブラーニングを行う。講義内容に係る内容のプレテスト（講義前）・ポストテスト（講義後又は宿題）を解き、解説を行う。質疑応答は適宜受け付ける。

日程

回 数	授業内容
1	小児歯科学概論、小児歯科診療の基礎知識①（心身の発育・生理的特徴・顔面頭蓋の発育）
2	小児歯科診療の基礎知識②（歯の発育・歯列咬合の発育）
3	小児歯科診療の基礎知識③（歯科疾患Ⅰと治療概要）
4	小児歯科診療の基礎知識④（歯科疾患Ⅱと治療概要）
5	小児歯科診療の基礎知識⑤（歯科疾患Ⅲと治療概要・虐待）
6	小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割①（診療環境・対応法・障害児の治療・治療の原則）
7	小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割②（障害児の治療・う蝕予防・口腔管理）
8	定期試験/解答・解説、授業総括

科 目	歯科矯正学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	納村泰弘・中嶋 昭	教員区分	一般教員

教科書	「新・歯科衛生士教育マニュアル歯科矯正学」(クインテッセンス出版株式会社)
参考書	特に指定しない。
成績評価	授業態度, 出席状況および定期試験にて評価する。
留意事項	忘れ物をしないように心掛け, 予習復習をしっかりと行い授業に臨むこと。

科目の目標	矯正歯科治療における専門的な歯科診療の補助に関する基礎知識を身につける。
授業概要	矯正歯科治療を行うために必要となる歯科衛生士の役割を理解し, それに関する基礎知識を学習する。

日程

回数	授業内容
1	矯正治療の概要・基礎知識 (1月8日 納村)
2	矯正歯科診断 (1月15日 中嶋)
3	矯正装置・矯正歯科治療と力 (1月22日 納村)
4	矯正歯科治療の実際 (1月29日 中嶋)
5	矯正歯科器材 (2月12日 納村)
6	矯正歯科臨床における衛生士の役割・口腔筋機能療法 (2月19日 納村)
7	これまでのまとめ (2月26日 中嶋)
8	定期試験/解答・解説 (3月5日 中嶋)

科 目	臨床検査法	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	守谷 友二郎	教員区分	一般教員

教科書	「歯科衛生学シリーズ 臨床検査」全国歯科衛生士教育協議会監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	講義資料を中心に予習、復習を行い、国家試験合格のための基礎力をつけること。

科目の目標	歯科衛生士国家試験合格基準に到達すること。
授業概要	臨床検査における歯科衛生士の役割を理解し、安全に行うための基礎知識を学習する。

日程

回数	授業内容
1	第1章 臨床検査と歯科衛生士の役割 / 第2章 生理機能検査 (P32 まで)
2	第2章 生理機能検査 / 第3章 血液学的検査 (P53 まで)
3	第3章 血液学的検査 / 第4章 感染症の検査 (P77 まで)
4	第4章 感染症の検査 / 第5章 肝機能の検査 / 第6章 腎機能の検査
5	第7章 糖尿病の検査 / 第8章 内分泌疾患の検査 / 第9章 免疫・血清学的検査 (P144 まで)
6	第9章 免疫・血清学的検査 / 第10章 病理学的検査 / 第11章 画像検査
7	第12章 口腔領域の臨床検査
8	定期試験/解答・解説、授業総括

科 目	歯科予防処置Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1 学年
		実施学期	3 学期
教員名	木村 めぐみ	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」「歯周病学」
参考書	特に指定しない
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	遅刻、忘れ物をしないように心掛け、集中して授業に臨むこと。

科目の目標	臨床でも重要となる予防処置について、基本的な知識を身につけ、また実践でも役に立つ情報を学ぶ。
授業概要	歯科予防処置業務を行うために必要となる専門家としての知識を学習する。

日程

回数	授業内容
1	歯科予防処置の定義と流れ
2	医療面接（問診・ホームケア聞き取り・情報収集）
3	スケーリング・ルートプレーニング①
4	スケーリング・ルートプレーニング②
5	再評価・歯周外科処置・SPT
6	歯面研磨・歯面清掃
7	フッ化物歯面塗布・小窩裂溝填塞
8	定期試験/解答・解説

科 目	歯科予防処置実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	6 4
		履修年次	1 学年
		実施学期	2・3 学期
教 員 名	久間 雅代、田崎 綾華、菊池 寿恵	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）		
参考書	適宜指示あり。		
成績評価	実技試験・出席・身だしなみ・授業態度・提出物を総合して評価する。		
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士に不可欠な器具の授業となるので欠席しないこと。 ・身だしなみをしっかり整え、忘れ物がないようにし、医療従事者になるという自覚を持って授業に臨むこと。 ・実技試験は3学期に実施する。 		

科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯石除去の操作の基礎を習得する。 ・相互実習を行う中で、患者を思いやる心や協力する態度を養い、各自の技術の向上に努める。 		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科予防処置で使用する器具・機械を衛生的で安全、かつ適切に使用できるよう、マネキン実習・相互実習を通して習得する。 		

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。		
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身につけさせる		

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、実習室の使用法
2	歯石除去のための器具・機械①
3	歯石除去のための器具・機械②
4	歯石除去のための器具・機械③
5	歯石除去のための器具・機械④
6	歯石除去のための器具・機械⑤
7	歯石除去のための器具・機械⑥
8	歯石除去のための器具・機械⑦
9	歯石除去のための器具・機械⑧
10	歯石除去のための器具・機械⑨
11	歯石除去のための器具・機械・総復習①
12	歯石除去のための器具・機械・総復習②
13	歯石除去のための器具・機械・総復習③

1 4	歯石除去のための器具・機械・総復習④
1 5	実技試験
1 6	実技試験/実技試験評価

科 目	総合講義	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1学年
		実施学期	3学期
教員名	松下愛美、筑城結城	教員区分	一般教員

教科書	・「歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） ・「歯科衛生学シリーズ 歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） ※授業プリントは適宜配布・指示する。
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験・出席・授業態度・提出物を総合して評価する。
留意事項	臨床実習に向け、必要な知識を身に着ける。体調管理を整え、休まず出席すること。

科目の目標	臨床実習について理解し、歯科衛生士として必要な知識・態度を習得する。
授業概要	来年度の臨床実習に向けて必要な知識・態度について学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	臨床実習に向けての学習①
2	臨床実習に向けての学習②
3	臨床実習に向けての学習③
4	臨床実習に向けての学習④
5	臨床実習に向けての学習⑤
6	臨床実習に向けての学習⑥
7	臨床実習に向けての学習⑦
8	定期テスト

科 目	医療人間科学Ⅱ	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	菅野真由美	教員区分	一般教員

教科書	全配布資料
参考書	ひとこと英会話 in the Dental Clinic (デンタルハイジーン) 「歯科英語」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	英単語並びに実践英会話をしっかりと声に出し発音する事に留意して授業に臨むこと

科目の目標	実践的な歯科診療の場面に沿った英会話並びに専門的英単語を習得する。
授業概要	上記の英会話、専門的英単語を紹介し、授業にて実際に発音し、会話の練習をしていく。

日程

回数	授業内容
1	英単語の学習 (歯の名称、部位の名称、口腔解剖用語、歯科医療に携わる者)
2	英単語の小テスト英単語の学習 (歯科学) ひとこと英会話 (電話で予約を受け付けよう)
3	英単語の小テスト、英単語の学習 (検査)、ひとこと英会話 (問診)
4	英単語小テスト、英単語の学習 (痛みの種類)、ひとこと英会話 (スケーリング)
5	英単語小テスト、ひとこと英会話 (薬剤、内服薬)
6	英単語小テスト、ひとこと英会話 (ブラッシング)
7	前期まとめ
8	定期試験、試験解答と解説

科 目	医療人間科学Ⅲ	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	菅野真由美	教員区分	一般教員

教科書	全配布資料
参考書	ひとつこと英会話 in the Dental Clinic (デンタルハイジーン)
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	英単語並びに実践英会話をしっかりと声に出し発音する事に留意して授業に臨むこと。

科目の目標	実践的な歯科診療の場面に沿った英会話並びに専門的英単語を習得する。
授業概要	上記の英会話、専門的英単語を紹介し、授業にて実際に発音し、会話の練習をしていく。

日程

回数	授業内容
1	英単語の学習（全身疾患）、ひとつこと英会話（術後、診療後の指示）
2	英単語小テスト、英単語の学習（歯科疾患）、ひとつこと英会話（シーラント）
3	英単語小テスト、英単語の学習（歯科治療）、ひとつこと英会話（印象採得）
4	英単語小テスト、ひとつこと英会話（X線写真）
5	英単語小テスト、ひとつこと英会話（受付での会話、フレーズ集）
6	英単語小テスト、ひとつこと英会話（チェアサイドでの会話、フレーズ集）
7	後期総まとめ
8	定期試験、試験解答と解説

科 目	薬理学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	久保山 昇	教員区分	一般教員

教科書	疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学 (医歯薬出版)
参考書	現代歯科薬理学 (医歯薬出版) 及び歯科衛生士国家試験問題集 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験 (100 点)
留意事項	講義内容で聞きもらしや理解できなかったところは、授業終了後に説明します。

科目の目標	薬を生体に作用させた時、どのようにして疾病の治療を促進するかを学習します。また、代表的な歯科臨床で常用される医薬品について学び、その詳細について解説します。
授業概要	総論では、薬理作用、薬物動態及び薬物の副作用について解説します。 各論では、疾患別に薬物の種類、作用機序及び適応症について解説します。

日程

回数	授業内容
1	総論①：薬物の作用について学習します。(4p～12p)
2	総論②：薬物動態及び薬物動態のパラメーターについて学習します。(13p～23p)
3	総論③：薬物の適用方法と薬物の作用に影響を与える要因を学習します。(24p～38p)
4	総論④：薬物の副作用と有害作用について学習します。(39p～46p)
5	総論⑤：医薬品を適用する際の注意及び薬物と医薬品について学習します。(47p～70p)
6	末梢神経系に作用する薬物について学習します。(79-87p)
7	中枢神経系に作用する薬物について学習します。(88-100p)
8	循環器系、腎臓及び呼吸器系に作用する薬物について学習します。(101-115p)
9	消化器系に作用する薬物及び血液に作用する薬物について学習します。(116-126p)
10	免疫と薬物及び悪性腫瘍と薬物について学習します。(127-139p)
11	代謝性疾患治療薬及び炎症と薬物について学習します。(140-158p)
12	痛みと薬物及び局所麻酔薬について学習します。(159-174p)
13	抗感染症薬について学習します。(175-185p)
14	消毒に使用する薬物について学習します。(186-197p)
15	う蝕予防薬、歯内療法薬及び歯周・顎口腔粘膜疾患の治療薬を学習します。(198-220p)
16	定期試験/解答・解説

科 目	衛生統計学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	渡部 亜希	教員区分	一般教員

教科書	「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学」(医歯薬出版)
参考書	授業プリントは適宜配布・指示する。
成績評価	定期試験および小テストにて評価する。
留意事項	講義内容のメモを取るように心がけ、また正しい計算ができるようになること。

科目の目標	高度な医療を提供するために、膨大な情報の中から必要な情報を取捨選択し、活用する方法を身につける。
授業概要	歯科衛生士として得た情報を口腔内の疾病予防、健康増進に活用する方法を学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	衛生統計学①
2	衛生統計学②
3	衛生統計学③
4	衛生統計学④
5	衛生統計学⑤
6	衛生統計学⑥
7	小テスト
8	歯科疾患の指数①
9	歯科疾患の指数②
10	歯科疾患の指数③
11	歯科疾患の指数④
12	歯科疾患の指数⑤
13	歯科保健統計
14	歯科の疫学
15	まとめ
16	定期試験/解答・解説

科 目	高齢者歯科学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	櫻井 薫	教員区分	一般教員

教科書	高齢者歯科学 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)
参考書	配布資料
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	安易な遅刻欠席はしないよう心がけ、復習をしっかりと行い授業に臨み、積極的に授業に参加すること。

科目の目標	高齢者に対する歯科衛生士業務を適切に実施するために必要な知識を習得することを目的に、我が国の高齢者を取り巻く状況、加齢変化・老化、高齢者の身体・精神・社会的特徴、主要な疾病と歯科治療時の対応法および高齢者の歯科診療の特徴について学ぶ。また、高齢者の口腔機能の評価法、口腔機能の維持・向上、口腔機能管理および口腔機能のリハビリテーションについても学習する。
授業概要	高齢者歯科医療を安全かつ円滑に行うために必要となる歯科衛生士の役割を理解し、それに関する基礎知識を学習する。

日程

回数	授業内容
1	高齢者を取りまく社会と環境
2	高齢者の健康に関わる法制度
3	老化に伴う身体的機能の変化
4	老化に伴う精神心理的機能の変化、口腔領域の変化
5	高齢者における口腔疾患—う蝕、歯周疾患—
6	高齢者の口腔粘膜疾患、口腔乾燥
7	口臭、口腔機能低下症、その他の疾患、
8	高齢者の医療情報の把握 (臨床検査、医療情報)、高齢者に多い全身疾患 1
9	高齢者に多い全身疾患 2
10	高齢者の生活機能評価と訪問診療
11	高齢者の口腔健康管理のための評価と対応
12	口腔衛生管理の実際
13	摂食嚥下機能について
14	摂食嚥下機能の評価・診断、摂食嚥下障害への対応
15	介護予防と栄養管理
16	定期試験/解答・解説

科 目	歯科予防処置実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習	実習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	64
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	久間 雅代・田崎 綾華・菊池 寿恵	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯周病学」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
成績評価	実技試験、出席、身だしなみ、授業態度、提出物を総合的に評価する。
留意事項	歯科衛生士に不可欠な器具の授業となるので欠席しないこと。 身だしなみをしっかり整え、忘れ物がないようにし、医療従事者になるという自覚を持って授業に臨むこと。

科目の目標	歯科予防処置で使用する器材について正しい知識と技能を身につける。
授業概要	歯科予防処置で使用する器材を衛生的で安全、かつ適切に使用できるよう、マネキン実習・相互実習を通して習得する。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に基本的な臨床力を身につけさせる。

日程

回数	授業内容
1・2	グレーシー型キュレットスケーラー総論 部位別操作法①
3・4	グレーシー型キュレットスケーラー 部位別操作法②
5・6	グレーシー型キュレットスケーラー 部位別操作法③
7・8	グレーシー型キュレットスケーラー 部位別操作法④
9・10	歯科衛生介入としての歯科予防処置①
11・12	歯科衛生介入としての歯科予防処置②
13・14	歯科衛生介入としての歯科予防処置③
15・16	歯科衛生介入としての歯科予防処置④
17・18	歯科衛生介入としての歯科予防処置⑤
19・20	歯科衛生介入としての歯科予防処置⑥
21・22	歯科衛生介入としての歯科予防処置⑦
23・24	歯科衛生介入としての歯科予防処置⑧
25・26	歯科衛生介入としての歯科予防処置⑨

27・28	フッ化物歯面塗布
29・30	小窩裂溝填塞法・実技試験前復習実習
31・32	実技試験定期試験/解答・解説

科 目	歯科保健指導Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	反町 美紀	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	必要に応じ指示する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	歯科衛生士に不可欠な授業となるので欠席しないこと。また、2コマ続きなので欠席超過に注意すること。

科目の目標	様々な対象者の特性を知り、対象者に寄り添った歯科保健指導を行うための知識を身につける。
授業概要	歯科保健指導を実施するために必要な知識を習得する。

日程

回数	授業内容
1	対象者別の歯科衛生介入① 成人期（歯科的特徴）
2	対象者別の歯科衛生介入② 成人期（生活習慣病）
3	対象者別の歯科衛生介入③ 老年期
4	対象者別の歯科衛生介入④ 配慮を要する者（要介護高齢者・障害児者）
5	対象者別の歯科衛生介入⑤ 摂食嚥下（機能）
6	対象者別の歯科衛生介入⑥ 摂食嚥下（リハビリテーション）
7	対象者別の歯科衛生介入⑦ 大規模災害被災者
8	定期試験/解答・解説、授業総括

科 目	歯科保健指導実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義・実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	反町 美紀	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士協会協議会 監修(医歯薬出版)
参考書	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士協会協議会 監修(医歯薬出版) ※授業プリントは適宜配布・指示する。
成績評価	定期試験実施。但し、出欠席・忘れ物・提出物は実習既定に準じ総合的に評価する
留意事項	歯科衛生士を目指す学生として正しい知識を身につけ、医療従事者になるという自覚を持ち授業に臨むこと。実習には積極的に取り組むことに。

科目の目標	対象者に合わせた歯科保健指導を行う為の実践を身につけ、保健・医療・福祉に関わる意義と歯科衛生士の役割を理解する。
授業概要	対象者に合わせた。歯科保健指導、臨床の場において対応できる基本的支援技術を学ぶ。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に臨床の応用力を身につけさせる。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション 個人指導、媒体の有効活用
2	歯科衛生過程の各構成要素・歯科衛生過程の進め方
3	歯科衛生アセスメントとしての情報収集①
4	個人指導に向けての準備①
5	歯科衛生アセスメントとしての情報収集②
6	個人指導に向けての準備②
7	歯科衛生過程演習④ ユニバーサルデザインフード ※(株)キューピー
8	歯科衛生過程演習⑤ ユニバーサルデザインフード ※(株)キューピー
9	歯科衛生過程演習①
10	個人指導に向けての準備③
11	歯科衛生過程演習②
12	歯科衛生過程演習③
13	個人指導に向けての準備④
14	個人指導に向けての準備⑤
15	まとめ
16	定期試験

科 目	歯科診療補助Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	杉本 雅子	教員区分	一般教員

教科書	「歯科診療補助論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない
成績評価	定期試験で評価する
留意事項	忘れ物をしないように心掛け、予習復習をしっかりと行い授業に臨むこと

科目の目標	各診療科目において使用する、歯科材料。歯科器具の用途を理解し、習得し、臨床の場で対応できる知識を身につける
授業概要	専門的な歯科診療補助のために基礎知識を習得する

日程

回数	授業内容
1	歯科臨床と診療補助①
2	歯科臨床と診療補助②
3	歯科臨床と診療補助③
4	歯科臨床と診療補助④
5	歯科臨床と診療補助⑤
6	歯科臨床と診療補助⑥
7	歯科臨床と診療補助⑦
8	歯科臨床と診療補助⑧
9	歯科臨床と診療補助⑨
10	歯科臨床と診療補助⑩
11	歯科臨床と診療補助⑪
12	歯科臨床と診療補助⑫
13	歯科臨床と診療補助⑬
14	歯科臨床と診療補助⑭
15	歯科臨床と診療補助⑮
16	定期試験/解答・解説、授業総括

科 目	歯科診療補助実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	1学期
教員名	古川 愉美	教員区分	実務教員

教科書	「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	最新歯科衛生士教本「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本「保存修復・歯内療法学」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本「歯科補綴」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本「口腔外科・歯科麻酔」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 歯科衛生士講座 関連科目 永末書店
成績評価	出席、持ち物、定期試験、課外、課外授業を総合して評価する。
留意事項	1年次に学習した内容をよく復習して臨むこと。

科目の目標	個々の歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎知識・技術・態度を習得する。
授業概要	専門的な歯科診療補助のために基礎知識・技術・態度を習得する。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

回数	授業内容
1	歯科診療における歯科診療補助①
2	歯科診療における歯科診療補助②
3	歯科診療における歯科診療補助③
4	歯科診療における歯科診療補助④
5	歯科診療における歯科診療補助⑤
6	歯科診療における歯科診療補助⑥
7	歯科診療における歯科診療補助⑦
8	歯科診療における歯科診療補助⑧
9	歯科診療における歯科診療補助⑨
10	歯科診療における歯科診療補助⑩
11	歯科診療における歯科診療補助⑪
12	歯科診療における歯科診療補助⑫
13	歯科診療における歯科診療補助⑬

14	定期試験/解答・解説、授業総括
15	歯科診療における歯科診療補助⑭
16	歯科診療における歯科診療補助⑮

科 目	口腔外科学・歯科麻酔学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	2学期
教員名	本橋 佳子	教員区分	一般教員

教科書	「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特になし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	視覚資料を多用するため、視力が悪い者は必ず視力矯正具を持参すること ノートをきちんととること

科目の目標	口腔外科疾患の種類・特徴等が分類できること。各種麻酔法・救急蘇生法を含め、歯科領域における全身管理や偶発症等への対応を理解すること。
授業概要	歯科衛生士にとって必要な口腔外科学（歯科麻酔学含む）について学習する。

日程

回数	授業内容
1	口腔外科学の概要 歯科治療で問題となる基礎疾患と対応
2	顎・口腔領域の化膿性炎症疾患
3	顎・口腔領域の嚢胞性疾患
4	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患、唾液腺疾患
5	顎・口腔領域の損傷および機能障害
6	顎・口腔領域の先天異常と発育異常
7	口腔領域の神経疾患 口腔粘膜の病変
8	口腔外科診療の実際① 外科的歯内療法
9	口腔外科診療の実際② 歯周外科処置
10	口腔外科診療の実際③ 消炎処置、抜歯術
11	歯科治療における歯科麻酔と患者管理：麻酔に必要な解剖学 局所麻酔①
12	歯科治療における歯科麻酔と患者管理：局所麻酔② 精神鎮静法
13	歯科治療における歯科麻酔と患者管理：全身麻酔 救急蘇生法
14	周術期口腔管理 総合病院での歯科の役割
15	まとめ テスト対策
16	定期試験/解答・解説

科 目	歯科放射線学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2学年
		実施学期	2学期
教員名	小林 馨	教員区分	一般教員

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学 第2版, 医歯薬出版
参考書	歯科放射線学 第7版または第6版, 医歯薬出版
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	授業の予習・復習を心がける。

科目の目標	放射線に関する正しい知識を習得し、安全に業務に従事するための基礎的な学力を身につける。
授業概要	放射線に関する基礎および臨床における知識を習得する。歯科臨床において、安全かつ円滑に業務を行うため歯科衛生士としての役割を学習する。

日程

回数	授業内容
1	1章 放射線と医療, 2章 口内法エックス線撮影①口内法エックス線撮影装置②口内法エックス線撮影に用いる検出器
2	2章 口内法エックス線撮影③口内法エックス線撮影④口内法エックス線撮影の実際
3	2章 口内法エックス線撮影④口内法エックス線撮影の実際⑤配慮が必要な患者のエックス線撮影⑥感染予防⑦口内法エックス線撮影に用いるエックス線フィルムとその写真処理
4	3章 パノラマエックス線撮影法
5	4章 歯科用コーンビーム CT, 5章 その他の画像検査法①頭部エックス線撮影②造影検査と嚥下造影③コンピュータ断層撮影法(CT)
6	5章 その他の画像検査法④磁気共鳴撮像法(MRI)⑤超音波検査(US)⑥核医学検査, 6章 歯科エックス線画像の観察①医療情報システムと画像の管理および観察②画像の観察: 歯と歯周組織の病変 1. う蝕 2. 根尖部歯周組織の病変
7	6章 歯科エックス線画像の観察②画像の観察: 歯と歯周組織の病変 3. 歯周組織の病変 4. 歯の異常 5. その他の異常 ③画像の観察: 顎骨の病変, 7章がんの放射線治療と口腔健康管理
8	定期試験/解答・解説

科 目	歯科予防処置Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2学年
		実施学期	2学期
教員名	木村 めぐみ	教員区分	一般教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	体調管理に気を配り、休まずに出席する。

科目の目標	専門基礎分野の知識を踏まえ、予防処置の実践方法を理解する。 予防処置に必要な器具や使用方法、注意点を理解する。
授業概要	今まで学習した講義や実習と関連づけながら歯科予防処置について学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	う蝕活動性試験①
2	う蝕活動性試験②
3	シャープニング①
4	シャープニング②
5	歯面研磨・歯面清掃
6	フッ化物応用
7	小窩裂溝填塞
8	定期テスト

科 目	臨地実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	12
		時間数	540
		履修年次	2学年
		実施学期	2・3学期
教員名	古川 愉美 他	教員区分	一般教員

教科書	配布済みの全教本
参考書	特に指定しない。
成績評価	出席、実習記録、指導者評価表により評価する。
留意事項	遅刻欠席せず実習に臨む。守秘義務を遵守する。実習記録は不備なく作成し、訂正も最後まで完了させること。また、提出物の期限は厳守すること。

科目の目標	症例に合わせた診療補助・口腔保健管理を実践するために、器具・薬剤・術式・指導に対応できる知識・技術・態度を修得する。歯科医療施設について理解を深め、歯科衛生士に求められる役割を理解する。
授業概要	指定された地域の一般歯科医院や施設にて、臨床実習として週に4回実習を行う。実践実習、実習記録の作成を日々行い、臨床の現場で学ぶ。

日程

別マニュアルに定める

科 目	総合講義	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時間数	32
		履修年次	2学年
		実施学期	2・3学期
教員名	柏井 伸子 他	教員区分	一般教員

教科書	最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論第2版 感染管理のきほん
参考書	特に指定しない。
成績評価	特に指定しない。
留意事項	臨床に即した内容のため休まず出席し、臨床実習で感じた疑問を解決するよう学習する。

科目の目標	臨床実習で感じた歯科臨床における感染管理の必要性を理解し、医療安全管理者たるべく知識を獲得する。
授業概要	資格取得後の臨床業務に向け必要知識・態度について学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	臨床実習に向けての学習① 感染管理概論 標準予防策・環境整備について
2	臨床実習に向けての学習② 感染管理概論 器材再生処理について（洗浄・消毒・滅菌）
3	臨床実習に向けての学習③
4	臨床実習に向けての学習④
5	臨床実習に向けての学習⑤
6	臨床実習に向けての学習⑥
7	臨床実習に向けての学習⑦
8	臨床実習に向けての学習⑧
9	医療安全の考え方とその実践
10	緊急事態への対応と偶発事故防止の工夫
11	感染管理のなりたち 制御と予防
12	標準予防策の必要性 手指衛生と環境整備
13	使用済み器材の取り扱い方 単回/再使用
14	消毒薬の特性と扱い方
15	滅菌の必要性和清潔/不潔の考え方
16	定期試験/解答・解説

科 目	障がい者歯科学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2学年
		実施学期	3学期
教員名	櫻井 薫	教員区分	一般教員

教科書	「障害者歯科 第1版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特になし。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	知識や技術のみならず、人としての「心」がより一層大切になる分野のため、各自、意欲を持って積極的に授業に臨むこと。

科目の目標	歯科衛生士として様々な障害者の歯科医療に関する問題に適切に対応するために、障害者歯科学の基本的知識を習得する。
授業概要	障害者の特徴、周辺環境、関わり方などについて包括的に理解し、その知識に基づいて、実際の臨床の場で歯科衛生士が果たすべき役割を学んでいく。

日程

回 数	授業内容
1	障害の概念など、歯科医療で特別な支援が必要な疾患（神経発達症群）
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患（運動障害、感覚障害、音声言語障害、精神および行動の障害）
3	障害者の歯科医療と行動調整
4	障害者に対する健康支援と口腔衛生管理
5	リスク評価と安全管理、中間復習
6	障害者に対する摂食嚥下リハビリテーション
7	地域における障害者歯科、後半復習
8	定期試験/解答と解説

科 目	医療人間科学Ⅳ	分野区分	基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	1・2学期
教員名	上野 真梨子 他	教員区分	一般教員

教科書	講師作成配布資料
参考書	無し
成績評価	定期試験による評価
留意事項	医療人として必要な知識や心構えについて様々な講師の講話を聴き視野を広げること

科目の目標	医療人として必要な知識や技術を社会にどのように生かすか社会貢献を含め考える
授業概要	多くの歯科衛生士からどのような仕事を通して社会に貢献し普及啓発しているか知る

日程

回数	授業内容
1	歯科衛生士の社会での役割と働き方 ①
2	歯科衛生士の社会での役割と働き方 ②
3	歯科衛生士の社会での役割と働き方 ③
4	歯科衛生士の社会での役割と働き方 ④
5	歯科衛生士の社会での役割と働き方 ⑤
6	歯科衛生士の社会での役割と働き方 ⑥
7	歯科衛生士の社会での役割と働き方 ⑦
8	歯科衛生士の社会での役割と働き方 ⑧
9	歯科衛生士の社会での役割と働き方 ⑨
10	歯科衛生士の社会での役割と働き方 ⑩
11	歯科衛生士の社会での役割と働き方 ⑪
12	歯科衛生士の社会での役割と働き方 ⑫
13	歯科衛生士の社会での役割と働き方 ⑬
14	歯科衛生士の社会での役割と働き方 ⑭
15	歯科衛生士の社会での役割と働き方 ⑮
16	定期試験/解答・解説

科 目	歯科介護学	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	3学年
		実施学期	1学期
教員名	反町 美紀	教員区分	一般教員

教科書	高齢者歯科、摂食嚥下リハビリテーション、歯科保健指導論、歯科補綴学、臨床検査
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	科目横断的な分野になるので、予習復習をしっかりと行いのぞむこと

科目の目標	多職種協働を行う為に、必要な知識を身につける。
授業概要	多職種との連携の意義を学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	歯科介護学概要
2	歯科衛生士に必要な介護現場での口腔衛生管理
3	歯科衛生士に必要な介護現場の基礎知識（疾患）
4	認知症サポーター養成講座
5	歯科衛生士に必要な介護現場の基礎知識（生活機能の評価）
6	高齢者や要介護者への栄養管理
7	高齢者に関わる医療と介護
8	定期試験と解答、解説

科 目	歯科衛生士概論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	3学年
		実施学期	1学期
教員名	鈴木 幸江	教員区分	一般教員

教科書	最新歯科衛生学教本「歯科衛生学総論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 2023年1月20日第1版第1刷発行
参考書	授業プリントを適宜配布する。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	国家試験問題を基に授業を展開するので、ノートをしっかりまとめましょう。

科目の目標	医療従事者の職業倫理を学び、歯科衛生士の倫理綱領を理解する。
授業概要	歯科衛生士の歴史を知り、歯科医療倫理について学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	歯科衛生士の歴史を再考する。
2	なぜ医療倫理を学ぶのか。
3	医の倫理に関する規範とバイオエシックス
4	インフォームド・コンセント、研究と医療倫理
5	歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動
6	歯科医療従事者に必要とされること
7	歯科衛生と倫理、歯科衛生士の倫理綱領
8	定期試験・定期試験の解答と解説

科 目	先端歯科医療学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	1・2学期
教員名	片岡 有、山口絢香	教員区分	一般教員

教科書	特に指定しない。 ※適宜、参考となる参考書を案内する。
参考書	特に指定しない。 ※適宜、参考となる参考書を案内する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	予習・復習を心がけ、講義および実習中は積極的に疑問点を解決するようにすること。

科目の目標	大きく変革している医療界の中で、口腔に関わる医療人の一員として活躍できる歯科衛生士になることを目指す。
授業概要	歯科医療の現状と新しい考え方（講義）と技術（実習）を学び、自ら学ぶことができる基本的考え方を学修する。

日程

回数	授業内容
1	チーム医療
2	クラウンの種類、義歯の構成要素
3	合着材・接着剤の基礎
4	インプラントと CAD/CAM 冠の基礎
5	山口担当講義の総復習(練習問題)①
6	山口担当講義の総復習(練習問題)②
7	情報リテラシー、文献検索法
8	歯科治療・歯科材料の全体像
9	光・歯科用レーザー
10	歯科治療を支える新材料「チタン」
11	歯科治療を支える新材料「ジルコニア」
12	歯科治療を支える新材料「CAD/CAM 冠」
13	合着・接着理論「レジンセメントを極める」
14	合着・接着理論「レジンセメントを極める」
15	片岡担当講義の総復習(練習問題)
16	定期試験/解答・解説、授業総括

科 目	歯科予防処置実習Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習・講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	1・2学期
教員名	杉本 雅子	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験・出席・身だしなみ・授業態度・提出物を総合して評価する。
留意事項	欠席・遅刻せず、正しい身だしなみで出席する。清潔・不潔の区別と安全に注意する。

科目の目標	診療室内の患者状況を想定し患者情報の守秘義務・感染対策・安全管理に留意した歯科予防処置を行う。安全に歯科予防処置を行うために、状況を判断し正しく機械操作を行う。
授業概要	臨床実習での経験を発展させ、歯科衛生士としての歯科予防処置実践能力を高める。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	歯科予防処置の実践①
3	歯科予防処置の実践②
4	歯科予防処置の実践③
5	歯科予防処置の実践④
6	歯科予防処置の実践⑤
7	歯科予防処置の実践⑥
8	歯科予防処置の実践⑦
9	歯科予防処置の実践⑧
10	歯科予防処置の実践⑨
11	歯科予防処置の実践⑩
12	歯科予防処置の実践⑪
13	歯科予防処置の実践⑫
14	歯科予防処置の実践⑬
15	歯科予防処置のまとめ
16	定期試験/解答・解説

科 目	摂食嚥下リハビリテーション学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	3学年
		実施学期	1学期
教員名	山口 絢香	教員区分	一般教員

教科書	「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版」 公益社団法人 日本歯科衛生士会 監修（医歯薬出版）		
参考書	講師作成の資料を配布する。		
成績評価	定期試験で評価する。		
留意事項	口腔の解剖学・生理学的な知識を復習しておくこと。		

科目の目標	歯科衛生士と摂食・嚥下の関わりについての理解を深める。		
授業概要	摂食・嚥下リハビリテーションに関する基礎的知識・技術を学ぶ。		

日程

回数	授業内容
1	歯科衛生士と摂食リハビリテーション/リハビリテーション/口腔管理/摂食嚥下機能
2	摂食嚥下機能のメカニズム
3	咬合および咀嚼機能の管理と評価/栄養管理
4	リスクマネジメント/病態別摂食嚥下障害
5	摂食嚥下の評価/摂食嚥下リハビリテーションと口腔衛生管理
6	摂食嚥下訓練
7	総復習
8	定期試験/解答・解説、授業総括

科 目	歯科保健指導実習Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	1・2学期
教員名	反町 美紀	教員区分	実務教員

教科書	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）
参考書	「歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）※授業プリントは適宜配布・指示する。
成績評価	出席状況(20%)、課題提出(20%)、実技試験(60%)で総合評価する。課題提出は提出期限を過ぎたものは次回の講義前日まで受理するが、各提出物の評価より一律 20%の減点とする。総合評価が 60 点に満たない者は再試験とする。
留意事項	体調管理に留意し、遅刻・欠席をしないように努めること。他者と協力して取り組むこと。

科目の目標	歯科衛生教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術および態度を習得する。
授業概要	対象者に合った健康教育の指導案を作成し、実践に向けた準備を行う。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

回数	授業内容
1	地域保健活動～健康教育の概要、健康教育の評価～
2	地域保健活動のフィールド
3	健康教育方法：媒体の選択と活用媒体の作成（自己紹介作成）
4	活用媒体の作成（自己紹介作成）（1）
5	活用媒体の作成（自己紹介作成）（2）
6	活用媒体の作成（自己紹介作成）（3）
7	集団に対する健康教育指導：対象別歯科衛生介入、学習指導案作成（1）
8	集団に対する健康教育指導：対象別歯科衛生介入、学習指導案作成（2）
9	集団に対する健康教育指導：グループワーク 集団指導媒体作成（1）
10	集団に対する健康教育指導：グループワーク 集団指導媒体作成（2）
11	集団に対する健康教育指導：グループワーク 集団指導媒体作成（3）
12	集団に対する健康教育指導：グループワーク 集団指導媒体作成（4）
13	集団に対する健康教育指導：グループワーク 集団指導媒体作成（5）
14	集団に対する健康教育指導：グループワーク 集団指導媒体作成（6）
15	実技試験 集団指導
16	実技試験 集団指導

科 目	歯科診療補助実習Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	1学期
教員名	松下 愛美	教員区分	実務教員

教科書	「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）		
参考書	最新歯科衛生士教本「歯科機器」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本「保存修復・歯内療法学」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本「歯科補綴」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本「歯科矯正」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 歯科衛生士講座 関連科目 永末書店		
成績評価	出席、持ち物、定期試験を総合して評価する。		
留意事項	1・2年次に学習した内容をよく復習して臨むこと。		

科目の目標	個々の歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎知識・技術・態度を習得する。
授業概要	専門的な歯科診療補助のために基礎知識・技術・態度を習得する。

実務経験	歯科衛生士の業務に4年以上従事している。
実務経験と授業の関連	臨床経験を生かして、学生に総合的な臨床力を身につけさせる。

日程

回数	授業内容
1	歯科診療における歯科診療補助①
2	歯科診療における歯科診療補助②
3	歯科診療における歯科診療補助③
4	歯科診療における歯科診療補助④
5	歯科診療における歯科診療補助⑤
6	歯科診療における歯科診療補助⑥
7	歯科診療における歯科診療補助⑦
8	歯科診療における歯科診療補助⑧
9	歯科診療における歯科診療補助⑨
10	歯科診療における歯科診療補助⑩
11	歯科診療における歯科診療補助⑪
12	歯科診療における歯科診療補助⑫
13	歯科診療における歯科診療補助⑬

14	歯科診療における歯科診療補助④
15	定期試験/解答・解説、授業総括
16	定期試験/解答・解説、授業総括

科 目	保険請求事務	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	3学年
		実施学期	1学期
教員名	時々輪 智恵子	教員区分	一般教員

教科書	歯科保険請求マニュアル（医歯薬出版）、歯科衛生士と法律・制度（医歯薬出版）
参考書	歯科診療（医歯薬出版）
成績評価	期末試験・出席・を総合して評価する。
留意事項	電卓を用意

科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療法、社会保障制度の体系を把握し、医療保険制度を理解する。 ・歯科医療分野における診療報酬保険制度を学ぶ。 ・カルテから治療内容を理解し、診療報酬を点数化してレセプト作成ができる知識を習得する
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、配布プリント等により医療法 ・社会保障保険制度の把握。医療保険制度を理解する。 ・歯科保険請求マニュアルの治療症例別に、歯科治療内容を点数化する作業をしながらレセプトを作成する。

日程

回数	授業内容
1	医療保険制度の概要
	保険証の種類と請求明細書の書き方
	歯科診療録・診療報酬明細書に使用できる略称について
	初診料、再診料
2	医学管理料、歯周治療の点数算定
3	う蝕、歯髄炎の点数算定
4	歯根膜炎、歯冠修復、歯冠修復処置の算定
5	小児予防処置の点数算定
6	抜歯と手術、欠損補綴（義歯、ブリッジ）の点数算定
7	総まとめ（総合問題）
8	定期試験/解答・解説

科 目	臨地実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	8
		時間数	360
		履修年次	3学年
		実施学期	1学期
教員名	古川 愉美 他	教員区分	一般教員

教科書	配布済みの全教本
参考書	特に指定しない。
成績評価	出席、実習記録、指導者評価表により評価する。
留意事項	遅刻欠席せず実習に臨む。守秘義務を遵守する。実習記録は不備なく作成し、訂正も最後まで完了させること。また、提出物の期限は厳守すること。

科目の目標	症例に合わせた診療補助・口腔保健管理を実践するために、器具・薬剤・術式・指導に対応できる知識・技術・態度を修得する。歯科医療施設について理解を深め、歯科衛生士に求められる役割を理解する。
授業概要	指定された地域の一般歯科医院や施設にて、臨床実習として週に4回実習を行う。実践実習、実習記録の作成を日々行い、臨床の現場で学ぶ。

日程

別マニュアルに定める

科 目	総合科目	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	10
		時間数	160
		履修年次	3学年
		実施学期	1, 2学期
教員名	上野 真梨子 他	教員区分	一般教員

教科書	<p>最新歯科衛生士教本 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「人体の構造と機能2 栄養と代謝」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「保健生態学 第3版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科衛生士と法律・制度 第3版」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科保健情報統計学」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「歯科衛生学総論」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版） 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）</p>
参考書	授業資料を適宜配布する。
成績評価	定期試験で評価する。
留意事項	3年間のまとめとして自主的、積極的に習得する。

科目の目標	歯科衛生士としての総合的な予防知識、柔軟な思考を身に付ける。
授業概要	1～3年で履修した内容の総復習（基礎歯科医学及び模擬試験、フィードバック）

日程

回数	授業内容
1	基礎歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ1
2	基礎歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ2
3	基礎歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ3
4	基礎歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ4
5	基礎歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ5
6	基礎歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ6
7	基礎歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ7
8	基礎歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ8

75	基礎歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ 75
76	基礎歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ 76
77	定期試験
78	定期試験
79	解答・解説
80	解答・解説

科 目	総合学習	分野区分	選択必修
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	選択
		単位数	10
		時間数	160
		履修年次	3学年
		実施学期	2,3学期
教員名	上野 真梨子 他	教員区分	一般教員

教科書	<p>「高齢者歯科 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)</p> <p>「障害者歯科 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)</p> <p>「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」全国歯科衛生士協議会 監修 (医歯薬出版)</p> <p>「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)</p> <p>「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)</p> <p>「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)</p> <p>「歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)</p> <p>「歯周病学 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)</p> <p>「歯科衛生学講座 小児歯科学」新谷誠康 監修 (永末書店)</p> <p>「人体の構造と機能2 栄養と代謝」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)</p> <p>「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)</p> <p>「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)</p> <p>「人体の構造機能1 解剖学・組織発生学・生理学」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)</p> <p>「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)</p> <p>「歯科矯正学」アイン・歯科衛生士教育マニュアル 監修 (クインテッセンス出版)</p> <p>「保健情報統計学」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)</p> <p>「保健生態学 第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)</p> <p>「歯科衛生学総論」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)</p> <p>「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴学第2版」全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)</p>
参考書	授業資料を適宜配布する
成績評価	定期試験で評価する
留意事項	3年間のまとめとして自主的、積極的に習得する

科目の目標	歯科衛生士としての総合的な予防知識、柔軟な思考を身に付ける
授業概要	1～3年で履修した内容の総復習

日程

回数	授業内容
1	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ1
2	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ2
3	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ3

76	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ 76
77	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ 77
78	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ 78
79	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ 79
80	臨床歯科医学・疾病異常の予防と健康増進の総まとめ 80